

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年7月25日

予報期間：7月27日～8月26日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

- ・全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東日本太平洋側と西日本では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
東日本日本海側と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

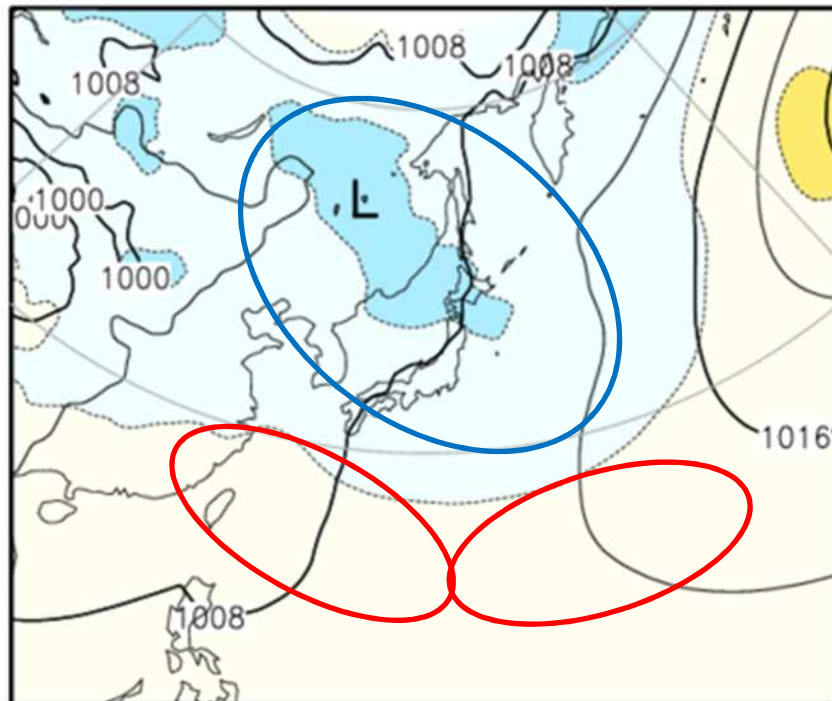
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	20:40:40	30:40:30	
	太平洋側		20:40:40	30:40:30	
東日本	日本海側	10:10:80	20:40:40	30:30:40	
	太平洋側		30:40:30	20:40:40	
西日本	日本海側	10:10:80	40:30:30	20:40:40	
	太平洋側		30:40:30	20:40:40	
沖縄・奄美		10:10:80	30:30:40	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:30:60	10:30:60	10:30:60
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

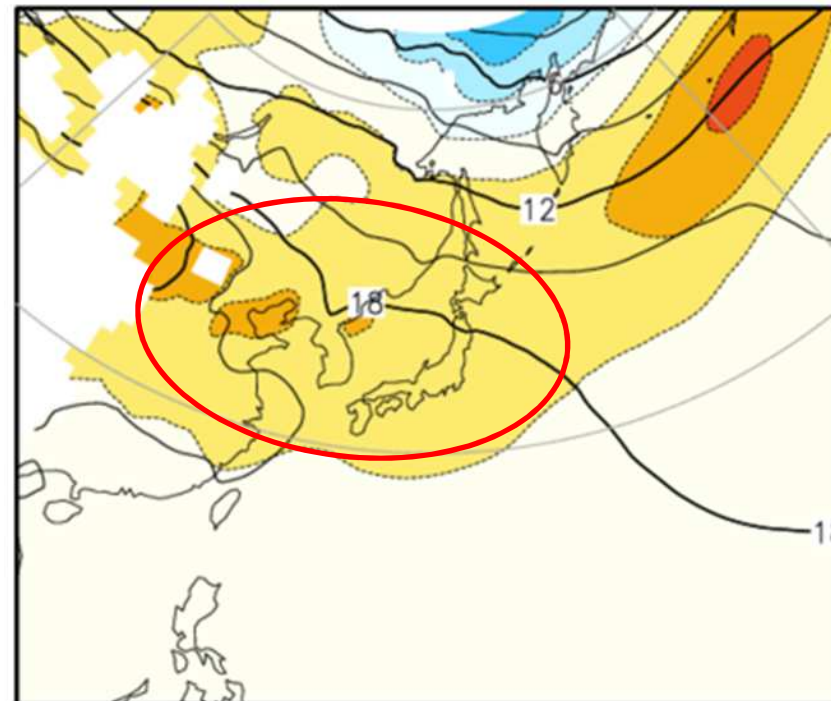
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため全国的に高いでしょう。特に、期間の前半は、全国的にかなり高くなる見込みです。
- ・向こう1か月の降水量は、前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすいため、北日本と東日本日本海側では、平年並か多いでしょう。
- ・向こう1か月の日照時間は、期間の前半を中心に太平洋高気圧の張り出しが強いため、東日本太平洋側と西日本では、平年並か多いでしょう。

地上気圧(1か月)



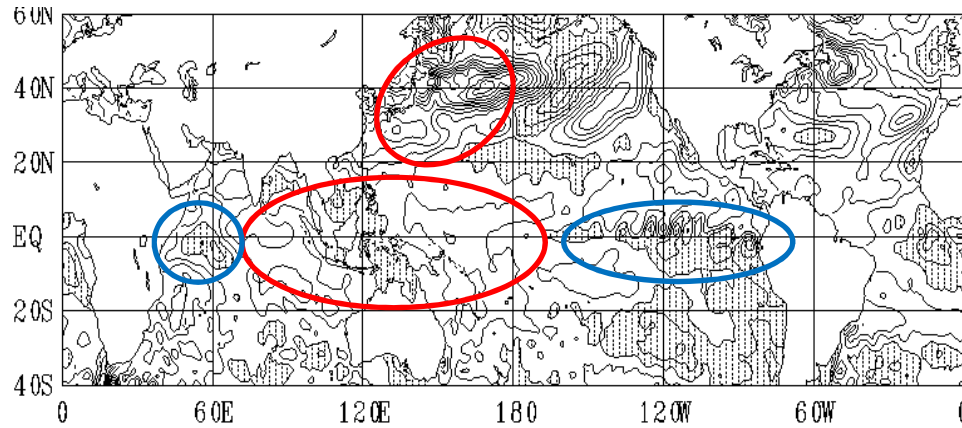
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)では、日本の南から東シナ海にかけて気圧が高く、太平洋高気圧の張り出しが強いでしょう。一方、北日本を中心に平年に比べ気圧が低く、前線や低気圧、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある見込みです。

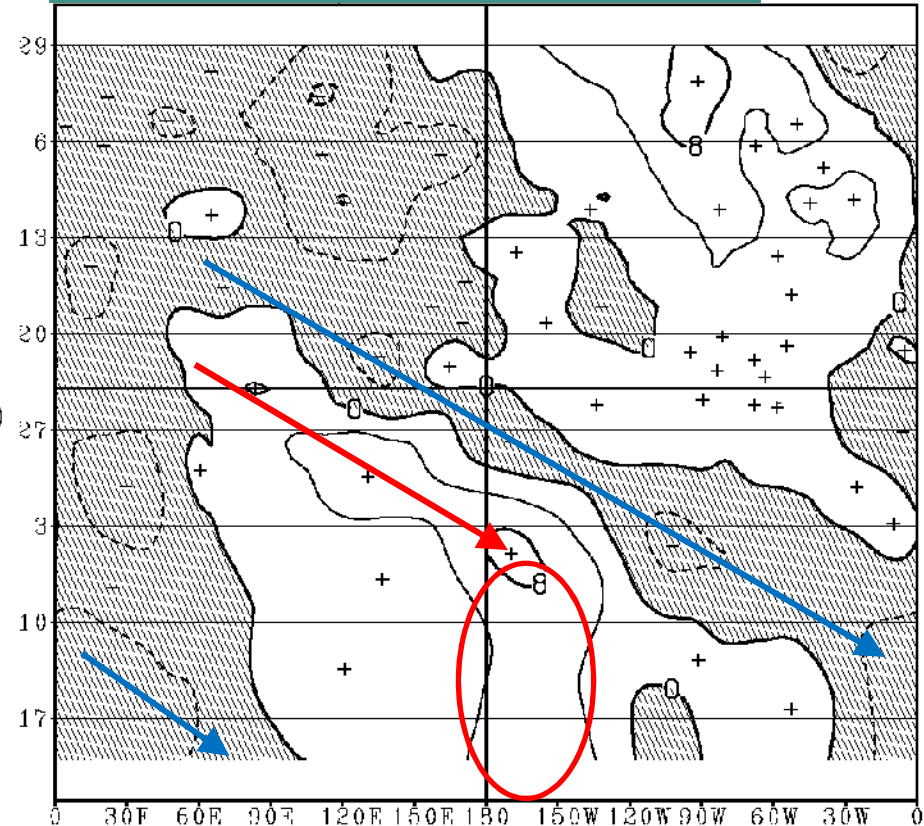
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



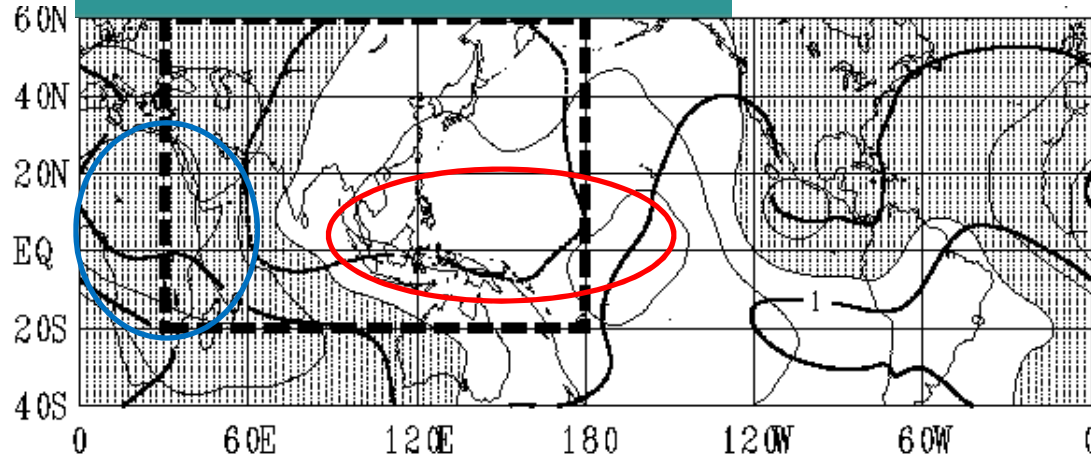
熱帯域では、インド洋西部では負偏差。
インド洋東部から太平洋中部にかけて
正偏差。太平洋東部では負偏差。これ
らはラニーニャ現象の特徴が現れ始め
ている。
日本周辺海域で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



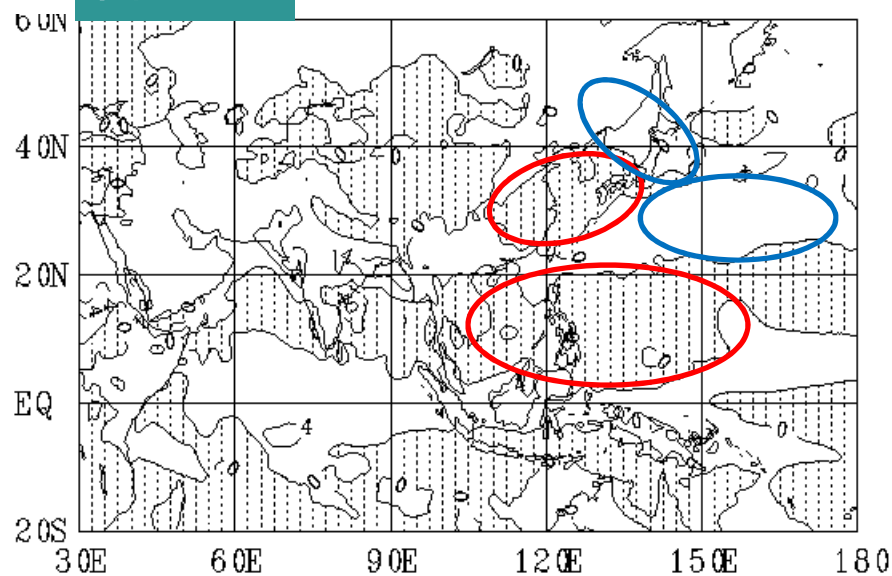
フィリピン付近の対流活発域は東進。
インド洋付近の対流不活発域は東進し
て日付変更線付近で動きが遅くなる。ま
た、インド洋付近から日付変更線付近
は対流不活発が続く。

200hPa速度ポテンシャル



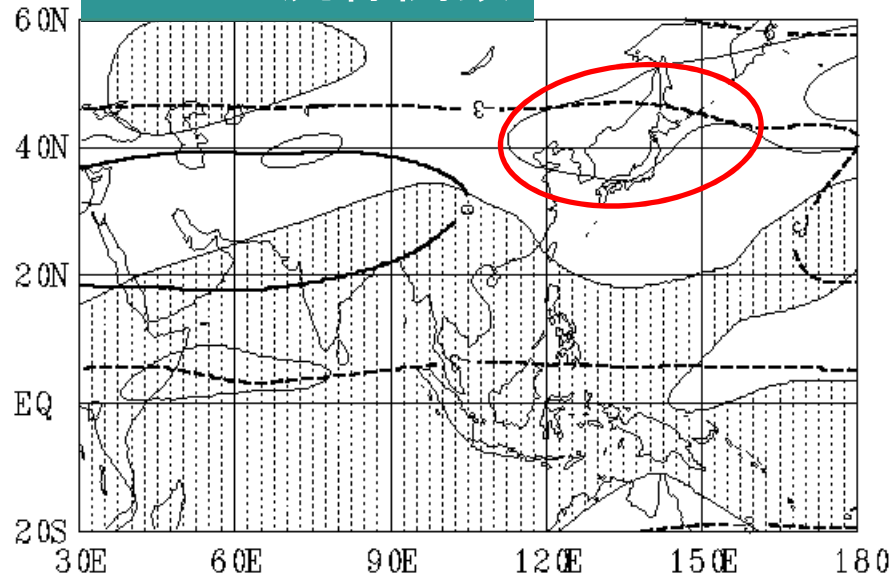
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インドネシア付近から太平洋中部で上層収束偏差。

降水量



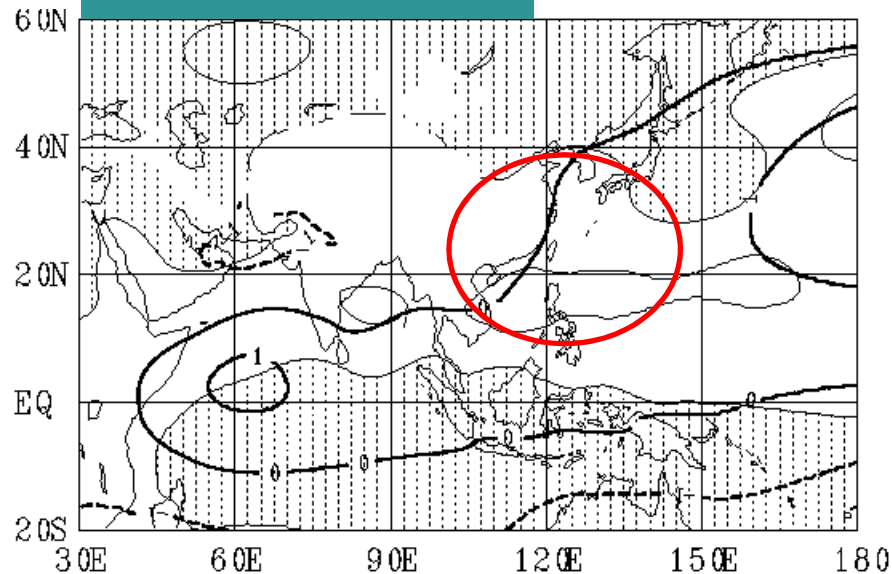
フィリピン付近から東と、西日本から東シナ海付近を中心に少雨偏差。
日本の南東と北日本付近を中心に多雨偏差。
日本の南東の多雨偏差は、この領域の高い海面水温の影響を強めに受けていて降水量が過大な可能性がある。

200hPa流線関数



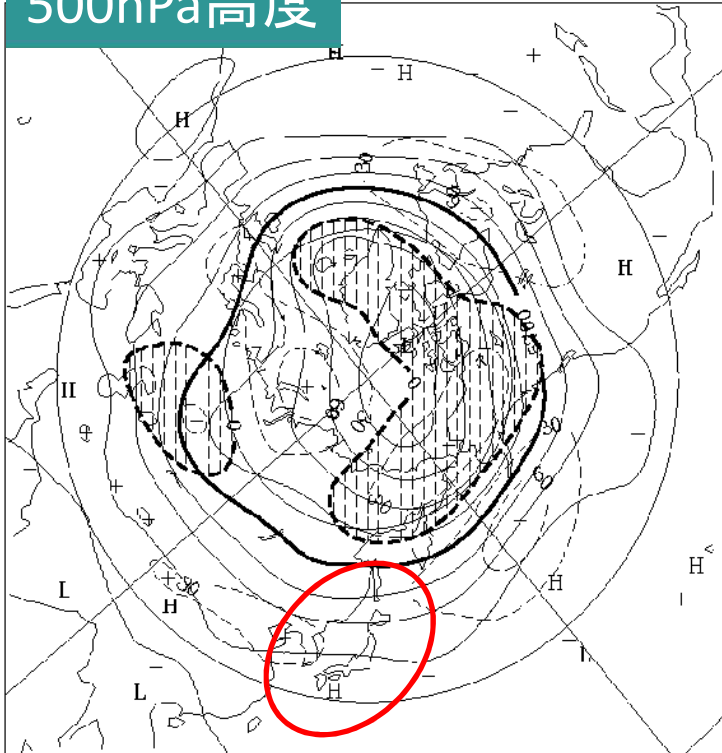
亜熱帯ジェット気流の波束伝播の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差で、この領域が東シナ海から西日本付近までかかる。

500hPa高度



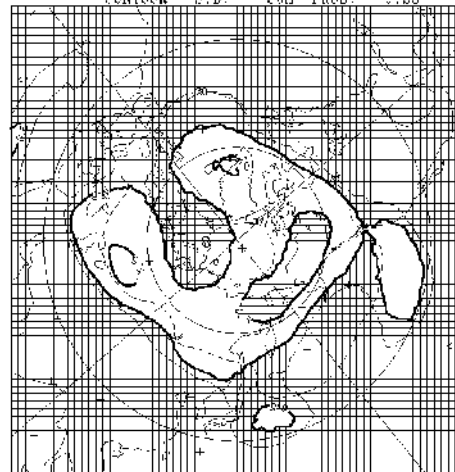
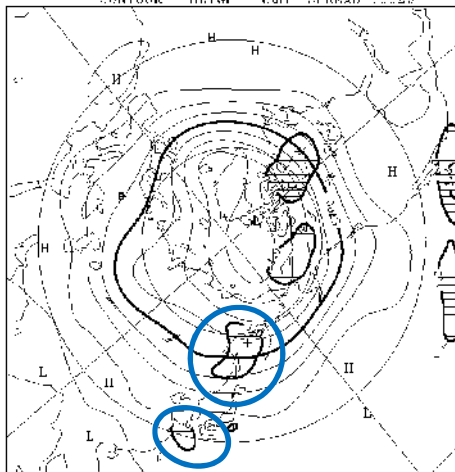
500hPa高度では、本州付近にリッジが予測され、日本付近は正偏差で、正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。オホーツク海付近と西日本付近ではスプレッドが大きい領域が予測され、モデルの不確実性がみられる。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

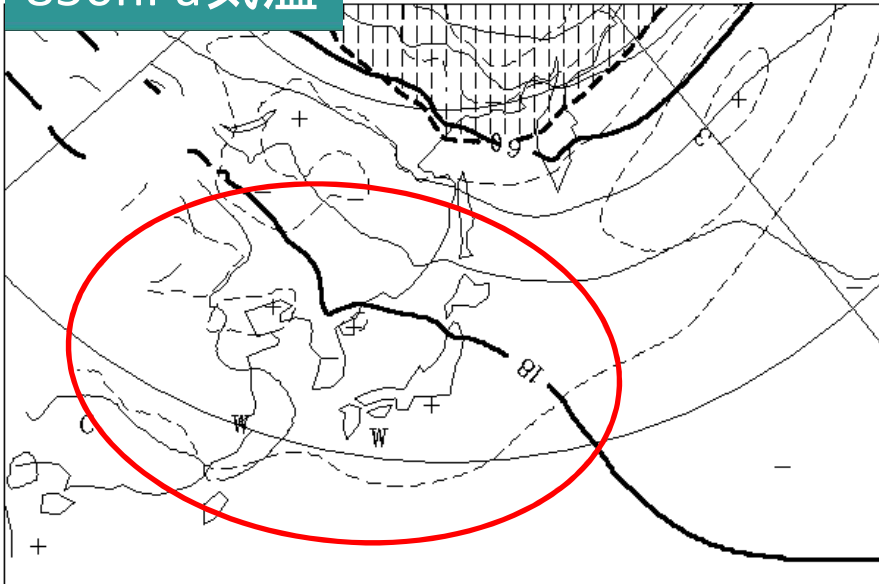
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

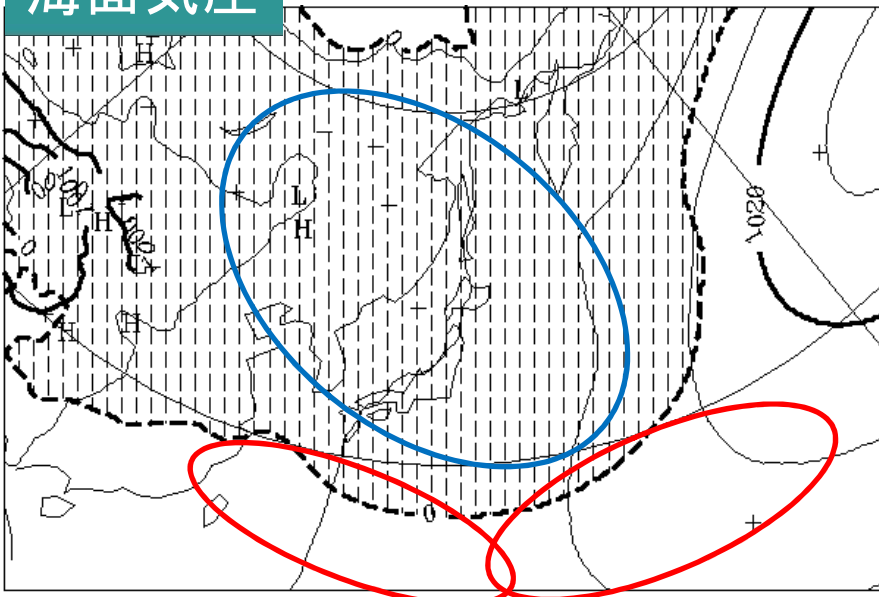


850hPa気温



日本付近は中国大陸からのびる強い高温偏差に覆われる。

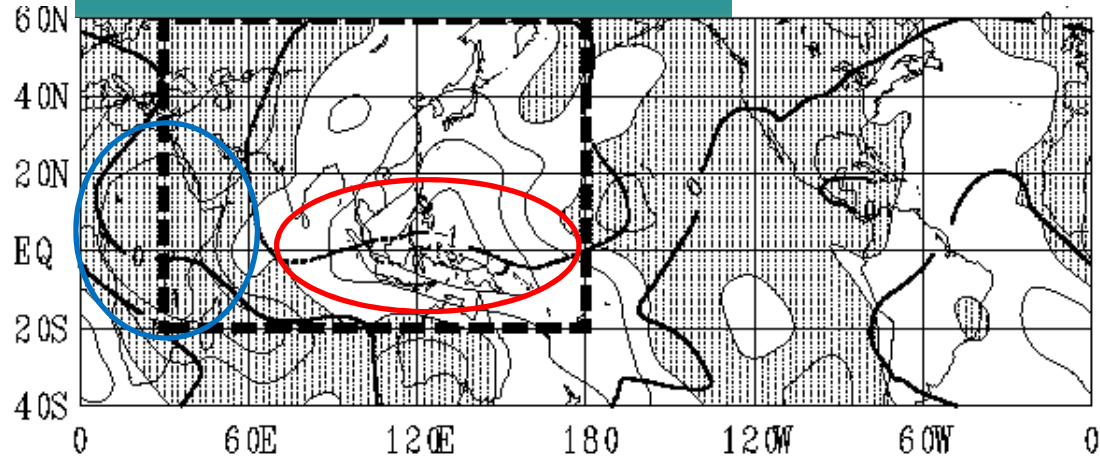
海面気圧



日本の南から東シナ海にかけて正偏差で、太平洋高気圧は日本の南で西への張り出しが強い予測。

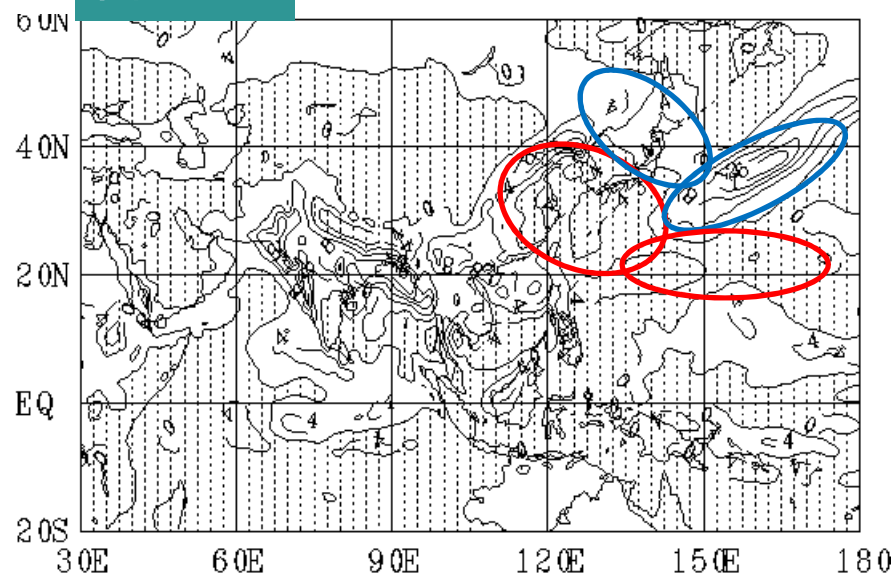
一方、北・東・西日本付近は北日本を中心に負偏差で、前線や低気圧、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



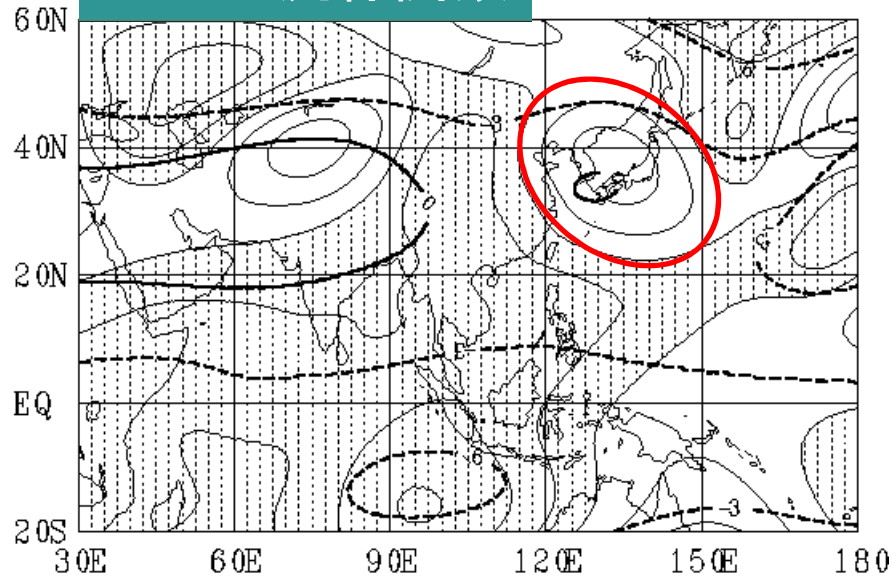
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



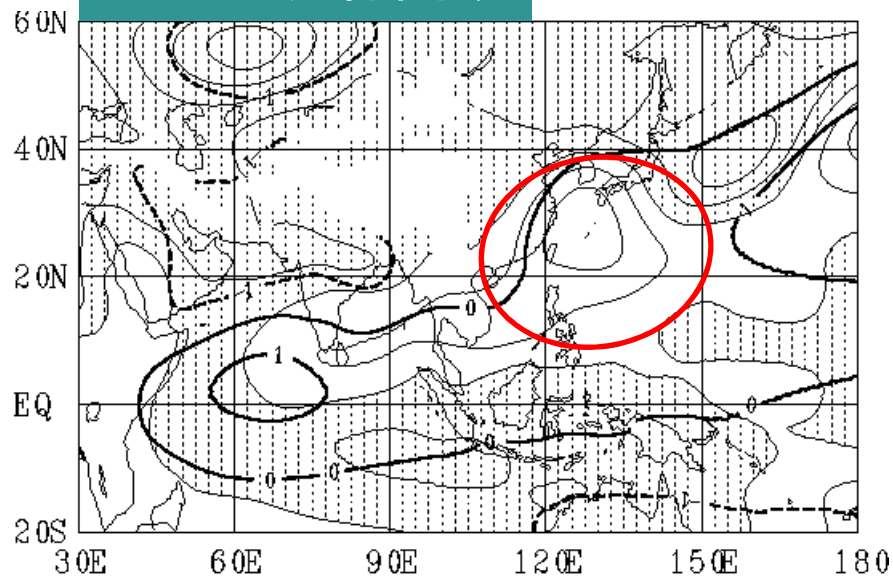
東シナ海付近から日本の南を中心に少雨偏差。
北日本付近と日本の東を中心に多雨偏差。

200hPa流線関数



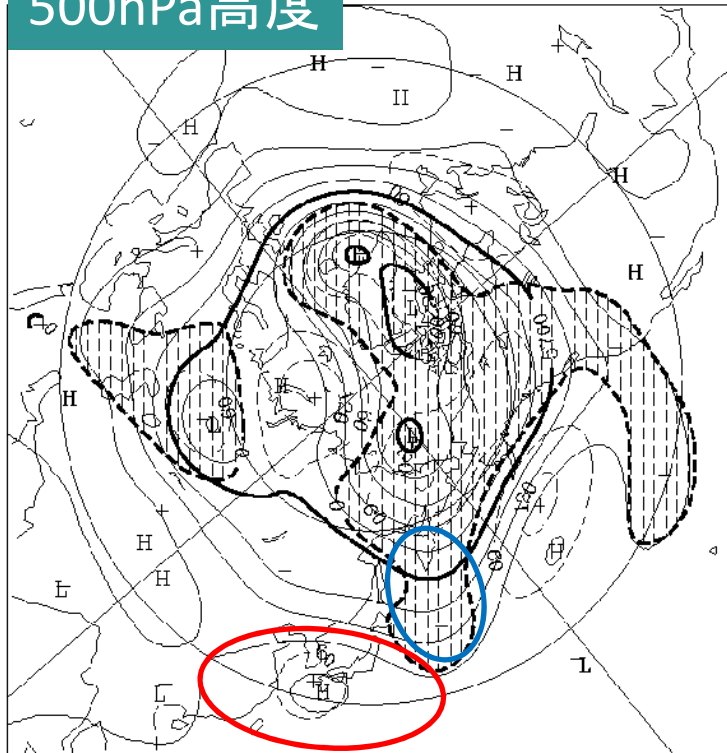
亜熱帯ジェット気流の波束伝播の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海から日本の南付近にかけて高気圧性循環偏差で、この領域が東シナ海から東・西日本付近までかかる。

500hPa高度

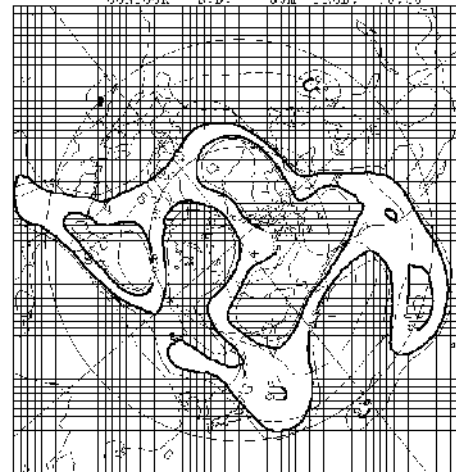
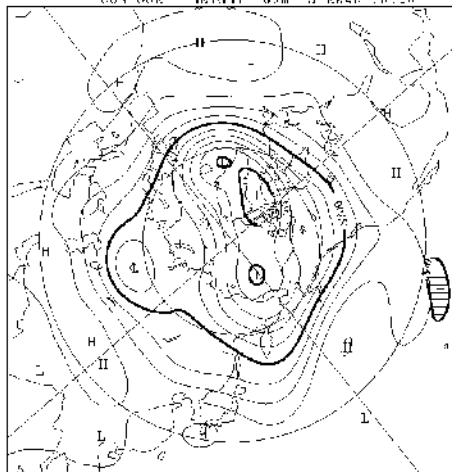


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

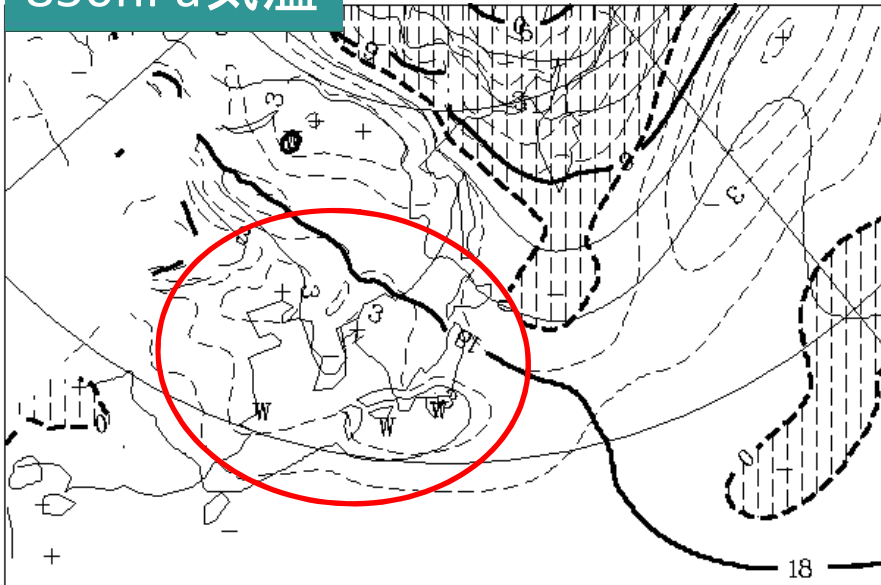
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



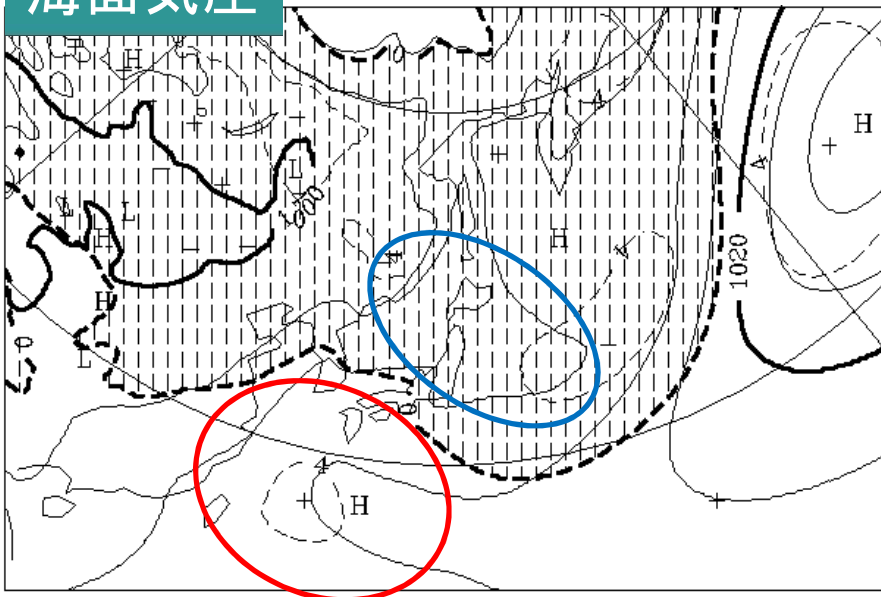
500hPa高度では、千島近海から日本の東にはトラフが予測され、西日本付近には、亜熱帯ジェット気流に沿って伝播するロスビー波束も関係する、背の高い強い高気圧が予測される。日本付近は正偏差で、北日本を除き、正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。

850hPa気温



日本付近は、中国大陸からのびる強い高温偏差域に覆われる。

海面気圧



西日本から南西諸島付近で正偏差が最も大きく、太平洋高気圧の張り出しが強い予測。
一方、北・東日本付近は北日本を中心に負偏差で、前線や低気圧、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

東日本日本海側では、前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

東日本太平洋側と西日本では、太平洋高気圧の張り出しが強いため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

・北日本では、前線や低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすいため、東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧が張り出し暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温。東・西日本と沖縄・奄美では気温がかなり高くなる見込み。

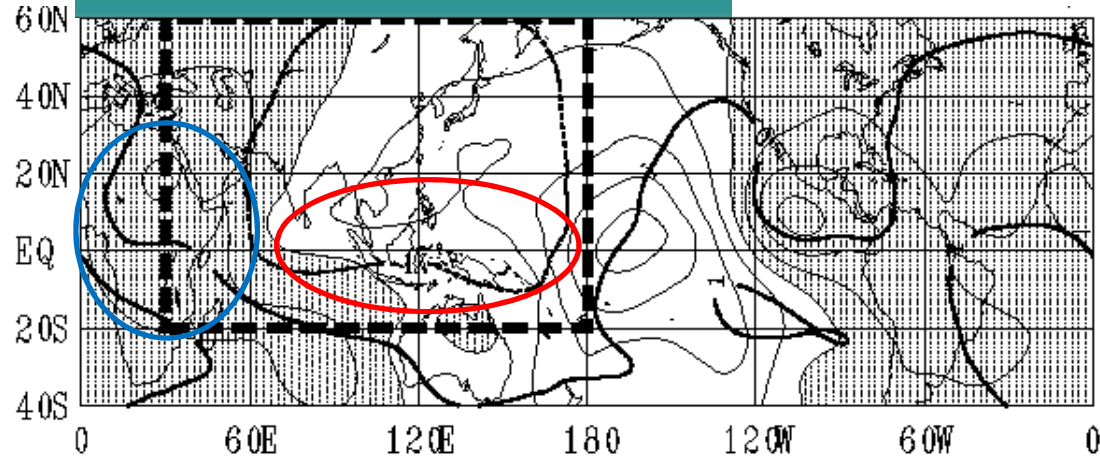
<天候>

・前線や低気圧、湿った空気の影響を受けやすいため、北日本と東日本日本海側では多雨傾向寡照傾向。

・太平洋高気圧に覆われやすいため、東日本太平洋側と西日本では、やや少雨多照傾向。

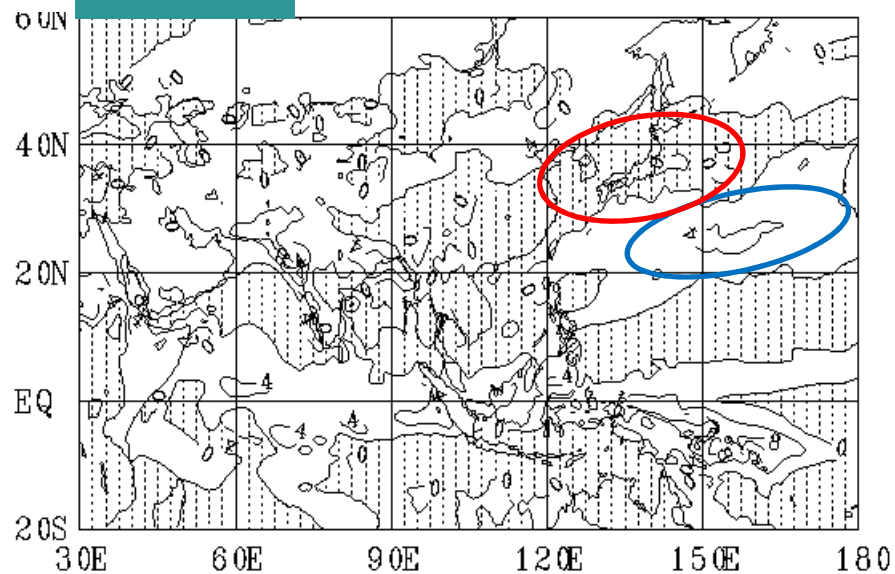
・沖縄・奄美では並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



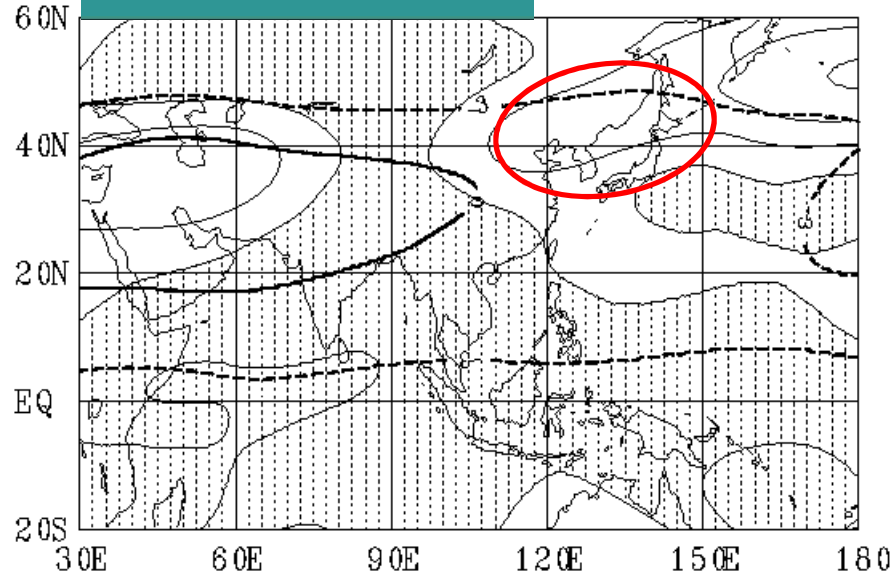
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から日付変更線付近で上層収束偏差。

降水量



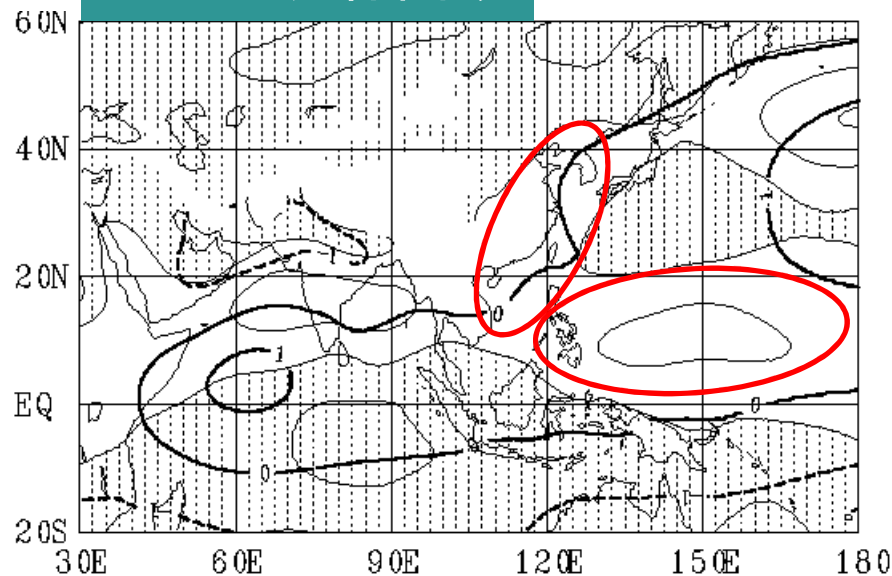
日本の南から日本の東を中心に多雨偏差。
北・東・西日本を中心に少雨偏差。

200hPa流線関数



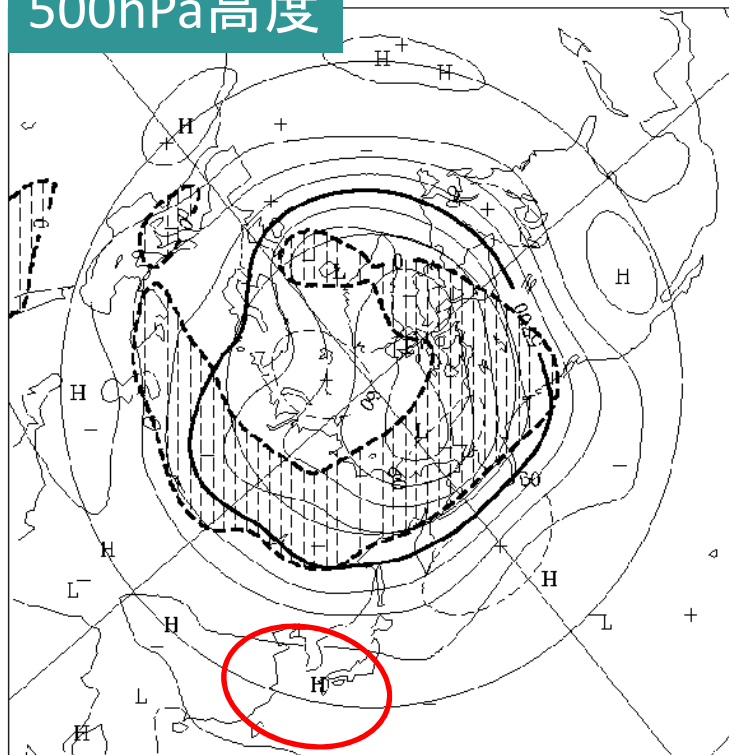
亜熱帯ジェット気流に沿って波列が見られ、日本付近は高気圧性循環偏差となる。
亜熱帯ジェット気流の軸は、サハラ付近まで北上する。

850hPa流線関数



フィリピンの東から日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差で、この領域が東シナ海から朝鮮半島付近までかかる。

500hPa高度

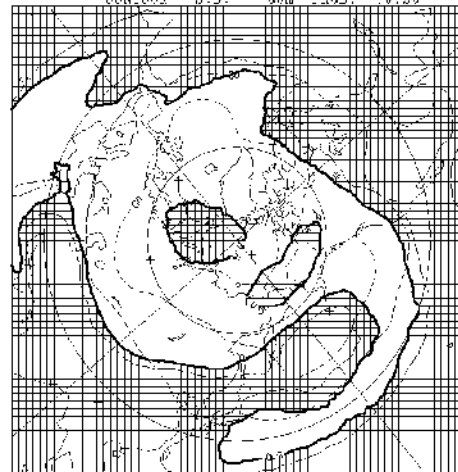
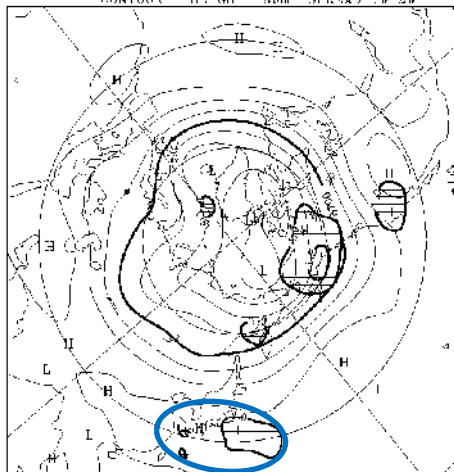


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF ILAKOMAY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

CONTOUR S.D. 30m 2203 0.25

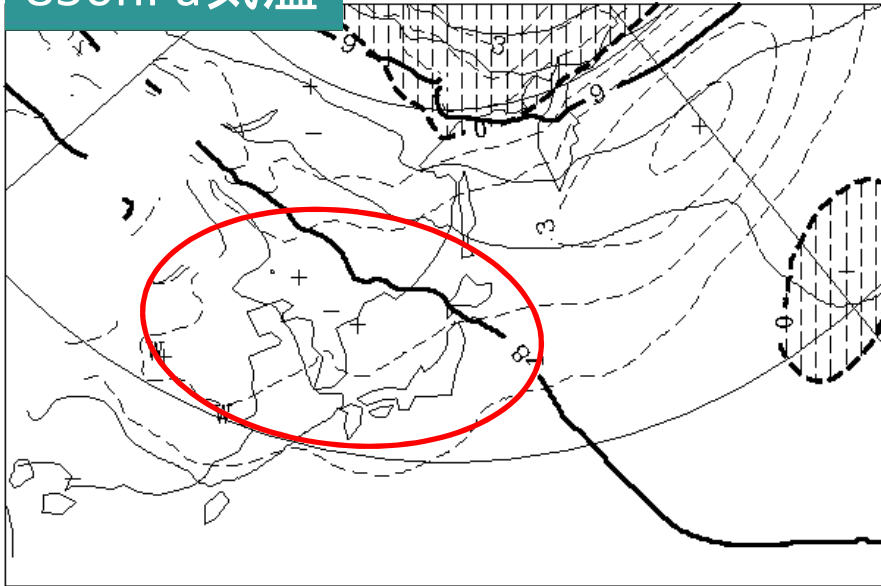


500hPa高度では、日本の東にはトラフが予測されるが偏差は小さい。

一方、西日本付近には、亜熱帯ジェット気流に沿って伝播するロスビー波東も関係する、背の高い高気圧が予測される。日本付近は正偏差で、おおむね正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。

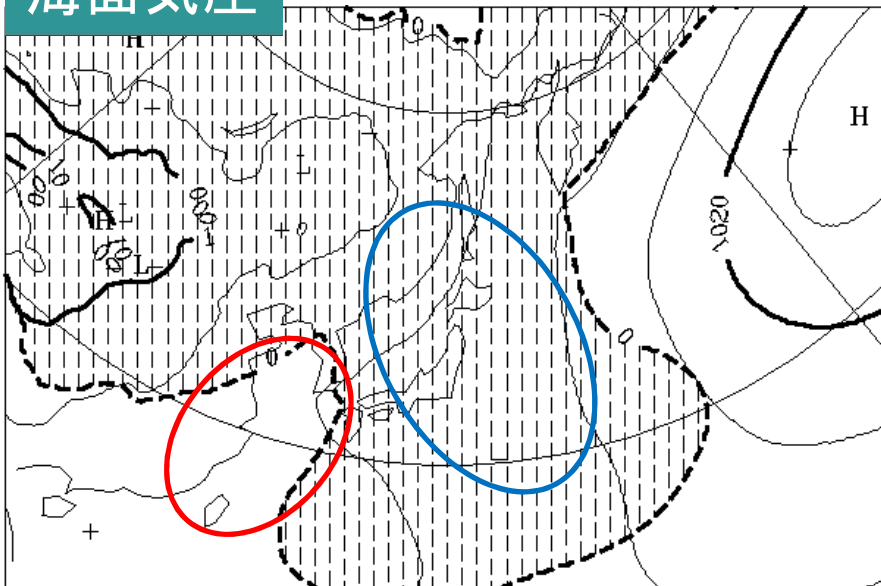
西日本から東日本太平洋側付近でスプレッドが大きい領域が予想され、日本の南周辺の予測には不確実性がある。

850hPa気温



日本付近は、中国大陸からのびる強い高温偏差域に覆われる。

海面気圧



東シナ海で正偏差が強く、太平洋高気圧の張り出しが強い予測。

一方、北・東・西日本付近は北日本を中心に負偏差。海面水温がラニーニャ現象の特徴が現れ始めたことや、熱帯の対流活動の影響を考慮し、日本付近での太平洋高気圧の張り出しは平年並に近づけて考える。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

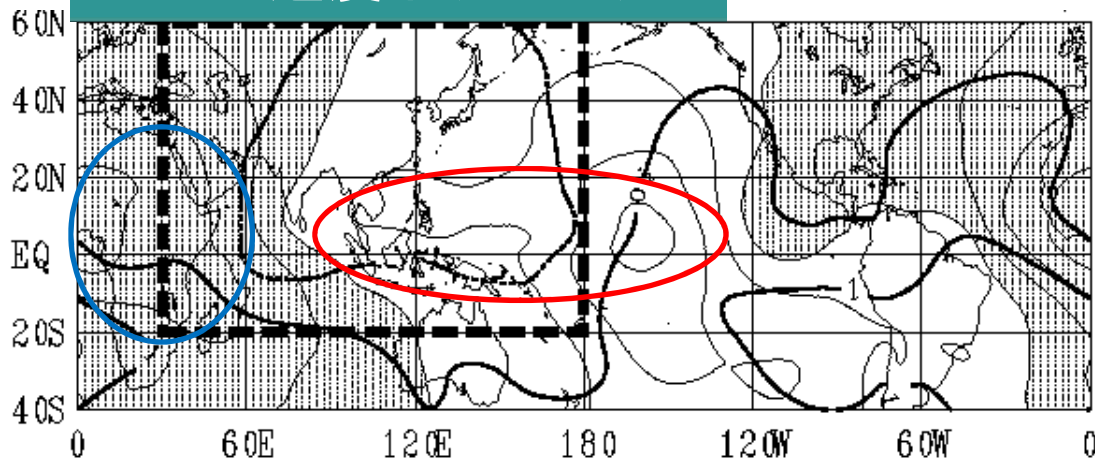
<気温>

・北日本では、前線や低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすいため、東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧が張り出し暖かい空気に覆われやすいため、全国的に気温がかなり高くなる見込み。

<天候>

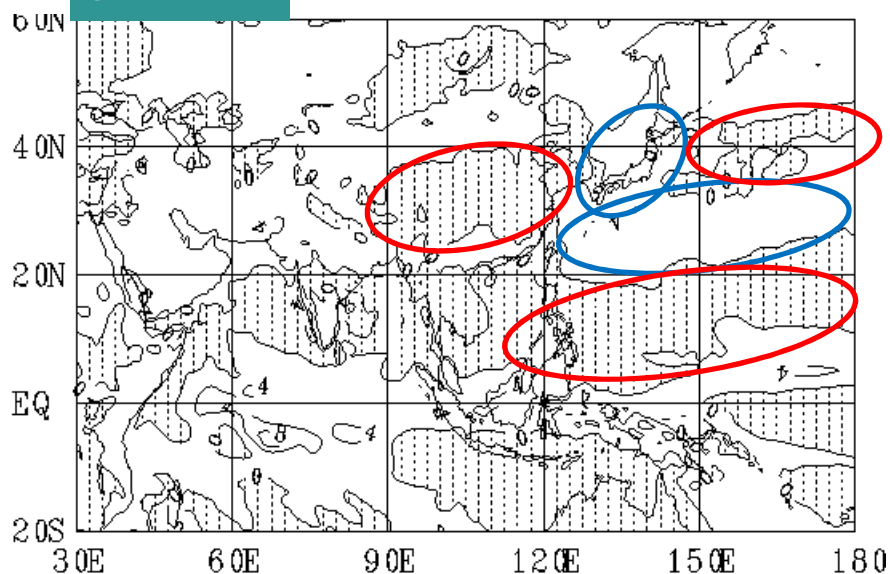
・北日本では前線や低気圧の影響が小さく、東日本と西日本太平洋側、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、並雨やや多照。
・西日本日本海側では太平洋高気圧に覆われやすいため、やや少雨やや多照。

200hPa速度ポテンシャル



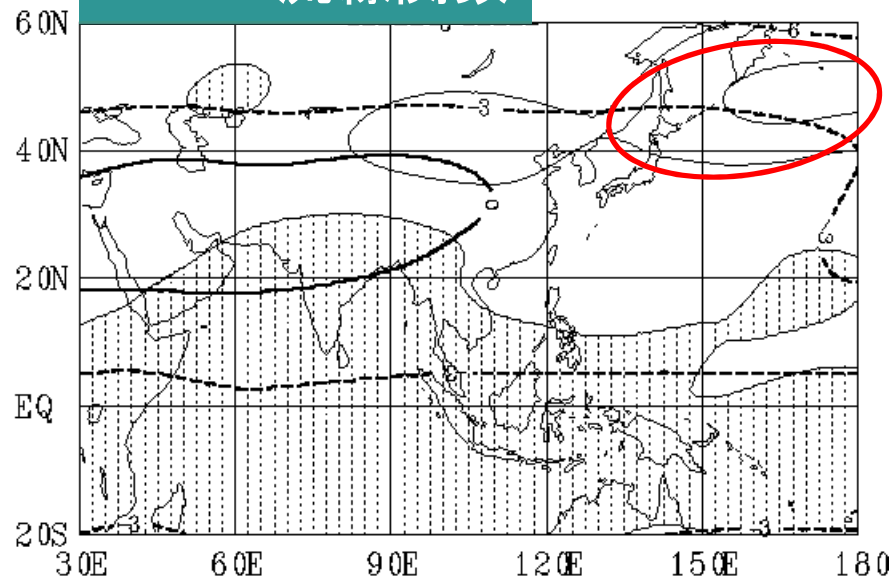
アフリカ大陸付近で上層発散偏差。インド洋東部付近から太平洋中部付近で上層収束偏差。

降水量



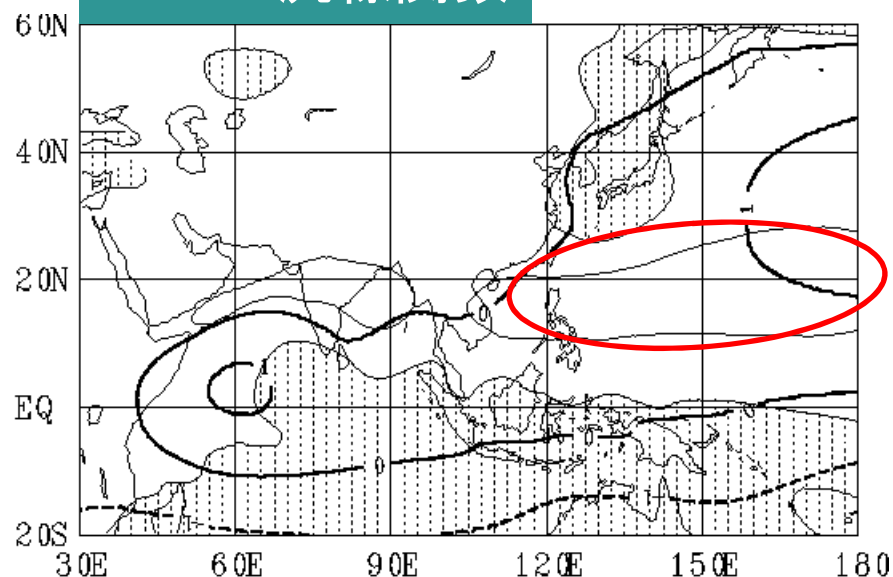
日本付近から日本の南を中心に多雨偏差。フィリピン付近から日付変更線付近にかけて、日本の東、華中から華南にかけて少雨偏差。日本の南の多雨偏差は、この領域の高い海面水温の影響を強く受け降水量が過大な可能性を考慮し、不確実性が大きいと考えやや割り引く。

200hPa流線関数



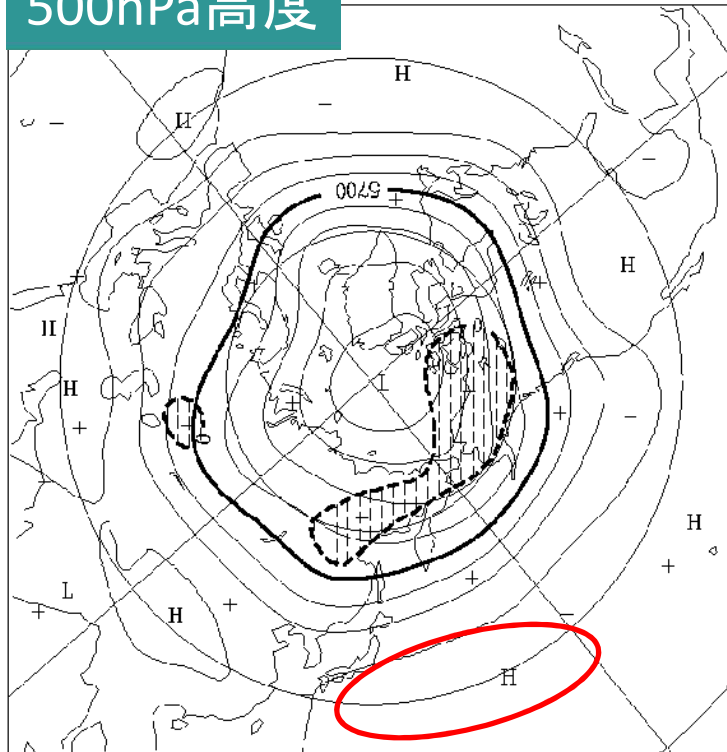
北日本付近は高気圧性循環偏差。
大陸からチベット高気圧が張り出してきており、日本付近まで正偏差がのびる。

850hPa流線関数



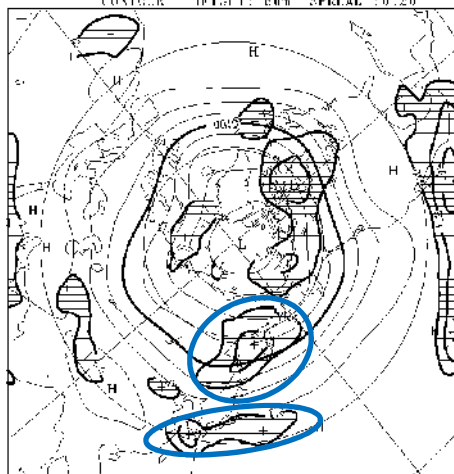
フィリピンの東から日付変更線付近にかけて高気圧性循環偏差。日本付近は南から高気圧の縁を回る湿った空気が流れ込みやすい。

500hPa高度



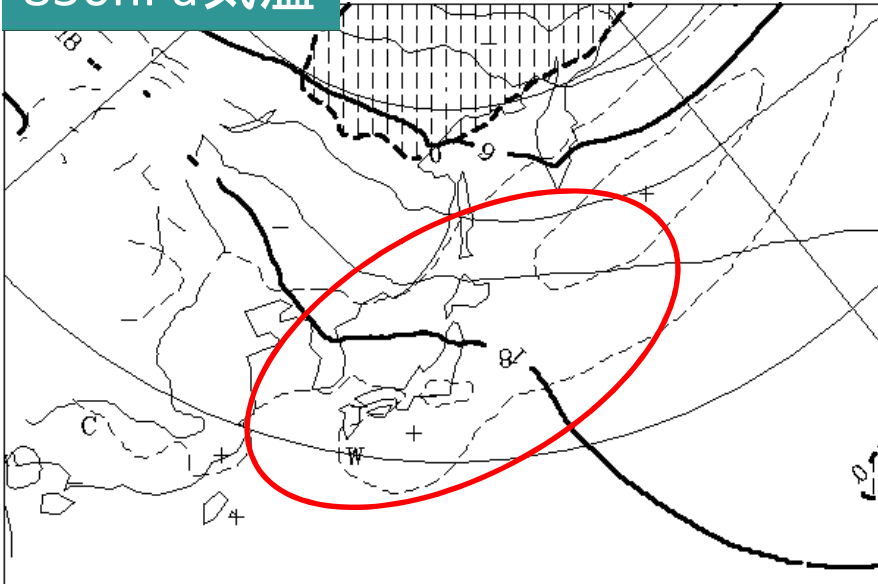
500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.



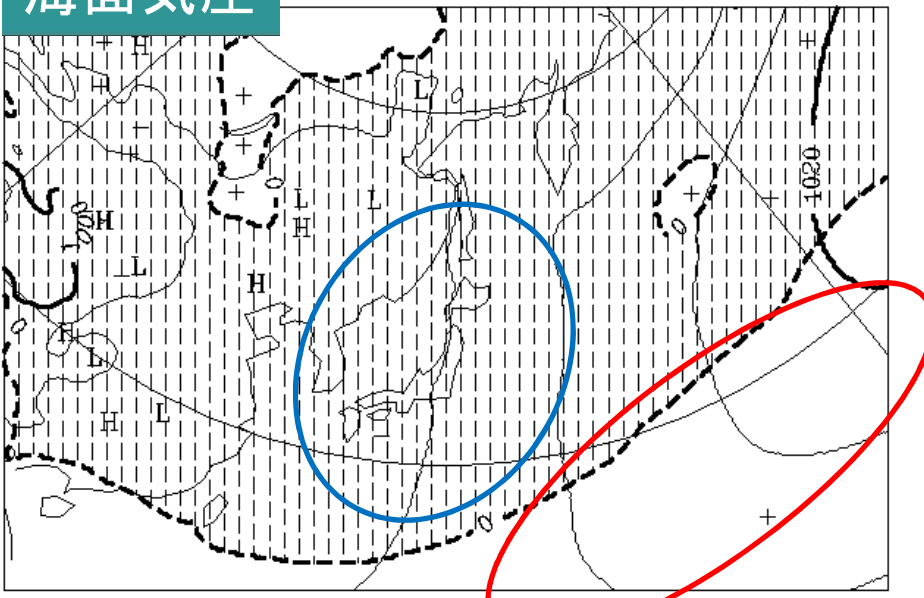
500hPa高度では、亜熱帯高気圧は日本の東に中心が予測され、華中付近にはトラフを予測。日本付近は正偏差で、北日本では正の高偏差確率が50%以上の領域に覆われる。一方、オホーツク海付近と西・東日本付近ではスプレッドが大きい領域が予測され、モデルの不確実性が大きい。

850hPa気温



日本付近はおおむね高温偏差に覆われる。

海面気圧



日本付近は負偏差の予測だが、500hPa高度でスプレッドが大きいことなどから、予測に不確実性がある。

海面水温がラニーニャ現象の特徴が現れ始めたことや、熱帯の対流活動の影響を考慮し、日本付近での太平洋高気圧の張り出しは平年並に近づけて考える。

想定される天候

北日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

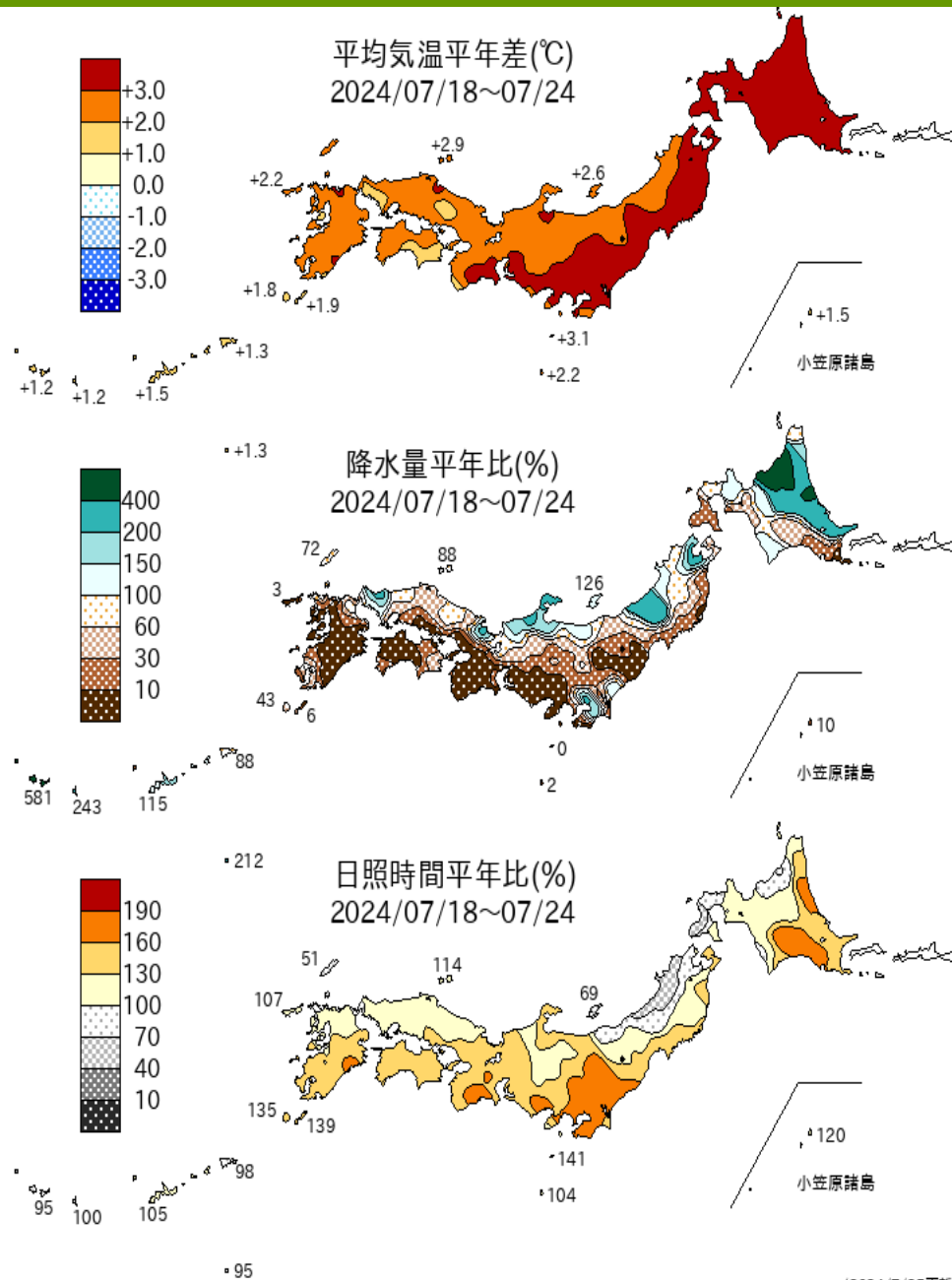
<気温>

・北日本では、前線や低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすいため、東・西日本と沖縄・奄美では、太平洋高気圧が張り出し暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温。

<天候>

・北日本では前線や低気圧の影響が小さく、東日本日本海側では太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、並雨やや多照。
・東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美では太平洋高気圧の縁を回る湿った空気が南から流れ込む影響で、やや多雨並照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(7月18日~7月24日)は、北日本を中心に低気圧や前線の影響を受けやすかったため、北・東日本日本海側では曇りや雨の日が多くなり、大雨となった所もありました。一方、北日本太平洋側は移動性高気圧に、東・西日本と沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすかったため、晴れた日が多くなりました。

沖縄地方では台風第3号の影響で、期間の終わりには大荒れの天気となりました。

気温は暖かい空気に覆われたため、全国的に高く、各地で猛暑日の所が多くなり、記録的な暑さとなった所もありました。